

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 広島大学附属幼稚園 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校 中高一貫<sup>※注2</sup> 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒739-0045

広島県東広島市鏡山北333-2

E-mail yochien@hiroshima-u.ac.jp

Website http://home.hiroshima-u.ac.jp/yochien/

幼児児童生徒数 男子 37名 女子 38名 合計 75名

幼児・児童・生徒の年齢 3歳～5歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

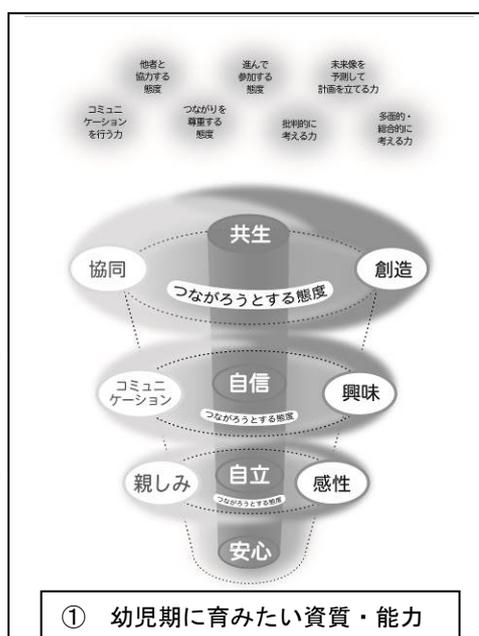
※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

### ① ESD を中心とした幼児期の教育課程の作成

「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）」の作成、及び「持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度」の幼児期の意味の検討を行った。幼児期に育みたい能力・態度の中心を人やものと「つながろうとする態度」とし、それが生まれるベースとなる「安心」や、人とのかかわりにおいて結果として表れる「協同」、ものとのかかわりにおいて結果として表れる「創造」、人やものとかかわりながら、私たちの生活を生み出すものとしての「共生」などを、「持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度」として設定し（図1）、それを育むための教育課程を作成した。



## ② 親子での森林保全活動

山に落ちている栗やイガ、木の枝などにポイントを付け、親子で集める活動を行った。集めたポイントは豚汁などと交換し、拾った木の枝は焚火の燃料にするなど、親子で楽しみながら森林保全を行う活動を行った。森をきれいにしておいしいご飯をいただくという活動を通して、森を身近に感じ、大切に思う気持ちを育んだ。

## ③ ユネスコスクールの小学校との交流

ユネスコスクールである、広島大学附属小学校の児童を本園の森に招待して、交流活動を行った。広島市内にあり豊かな自然とかかわることの少ない附属小学校の児童に、自然の中で自然物と直接体験する提供し、小学校児童の環境への理解を推進する機会を提供した。

## ④ ユネスコスクールを目指す小学校との相互交流

ユネスコスクールを目指している地域の小学校との相互交流を行い、本園教諭が幼児の取り組みを小学校児童に話をしたり、本園教諭が小学校の授業を参観し、その後の研究会に出席したりした。そのことで、それぞれの校種でのE S Dの取り組みを学ぶ機会となった。



② 親子での森林保全活動



② 栗の枝などを集めるポイントカード



③ 小学生との森での交流



④ 園児の授業参加

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自然観)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(保育時間<教科のくくりがないため>)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本園の場合は、教育課程そのものをESDで育みたい資質・能力を中心にしたものにしてている。そのため、ESDを特別な時間、特別な活動とはとらえていない。

従来から行ってきた保育内容を、ESDの観点から考察を加え、その概念を幼児期に体験できるように工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

全職員が研究開発部に属し、定期的な園内研究日及び外部からの指導を受ける公開研究日を設けて、ESD保育を実践するための研究を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本園職員による内部評価、園児の育ちを測定する評価、及び研究に協力してくれる外部の有識者の評価を行い、ESD保育を評価している。

成果としては、幼児期におけるESDの意味付けを行い、教育課程を作成したこと、課題としては、具体的保育内容を、ESD視点で深化させることである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

幼児期のESDをテーマにした公開研究会を開催し、多くの参加者を得て公開保育、研究報告、幼児期のESDに関するシンポジウムを行った。また、本年度明らかになった内容を研究紀要としてまとめた。また、保護者向けにESD講演会や親子での森林保全活動を行った。そのことにより、研究会参加者及び保護者から、ESDに関しての理解が深まったとのフィードバックを受けた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

広島ESDコンソーシアム研修会に参加し、本園の研究を発表し、参加者との連携を図った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

先述の通り、広島市内のユネスコスクールの小学校との園児、児童の交流を行った。また、地域のユネスコスクールを目指すESD実践小学校との、教師、園児、児童を含んだ交流を行い、ESDを通じた地域の連携をスタートさせた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

幼児と保護者が一緒に環境保全活動を行ったり、保護者向けのESD講演会を行ったりしたことで、保護者のESDに対する意識や理解が高まったことが、アンケートから示された。講演とフィールドワークを組み合わせることが、効果を高めたことが、アンケートから示唆された。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 持続可能な社会づくりの構成概念を意識した保育実践  
年間を通し、「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」を含んだ多様な体験を保障する教育課程を開発することにより、持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度を育成する。
- ・ 保護者と園児との森林保全活動及び保護者向けESD講演会  
園児のみならず保護者のESDへの意識を高めるための活動を引き続き行う。講演とフィールドワークを組み合わせることで、その効果を高める。
- ・ ユネスコスクール及びESD実践校との交流  
昨年度は、ユネスコスクールやESDを実践している小学校との交流を行った。引き続き小学校との交流を行うと同時に、地域の幼稚園や保育所との交流、他園の自然体験活動の機会の保障等を行う。